

3-1-4 多機能トイレ等の利用実態アンケート調査結果の比較

1. 車いす使用者、オストメイト、子ども連れに対するアンケート調査の実施方法.....	Ⅲ-122
2. アンケート調査結果の比較（以降：再掲）.....	Ⅲ-123
(1) トイレの所要時間.....	Ⅲ-123
1-1 トイレの所要時間（通常時）.....	Ⅲ-123
1-2：トイレの所要時間（トラブル時）.....	Ⅲ-123
(2) 多機能トイレで待たされた経験等.....	Ⅲ-124
2-1：多機能トイレで待たされた経験.....	Ⅲ-124
2-2：多機能トイレを待つのが困難で利用を諦めたこと.....	Ⅲ-124
2-3：多機能トイレが使用中だったときはどうするか.....	Ⅲ-125
2-4：使用中の多機能トイレから出てきた方（オストメイトは調査対象項目外）.....	Ⅲ-126
(3) 多機能トイレに関する課題.....	Ⅲ-127
3-1：多機能トイレの設置数.....	Ⅲ-127
3-2：多機能トイレ設置の地域的な偏り.....	Ⅲ-127
3-3：多機能トイレの設置が施設の優先的利用につながるか.....	Ⅲ-128
(4) 一般トイレ内の広めトイレの使用.....	Ⅲ-128
4-1：多機能トイレが使用中の場合の一般トイレ内の広めトイレの利用意向.....	Ⅲ-128
(5) 表示・情報提供.....	Ⅲ-129
5-1：トイレ内のレイアウト図を確認するか.....	Ⅲ-129
5-2：表示に期待すること（子ども連れは選択肢が異なるため比較しない）.....	Ⅲ-129

1. 車いす使用者、オストメイト、子ども連れに対するアンケート調査の実施方法

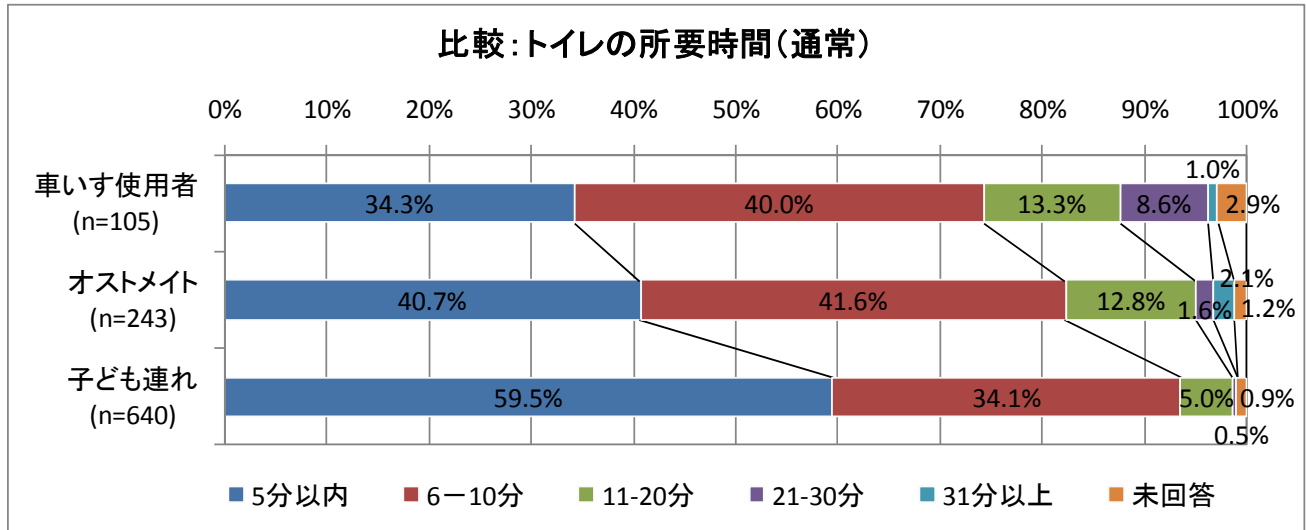
アンケート対象	車いす使用者	オストメイト	子ども連れ
実施期間	平成 23 年 11 月 14 日～ 平成 23 年 12 月 12 日	平成 23 年 12 月 26 日～ 平成 24 年 1 月 27 日	平成 24 年 1 月 19 日～平成 24 年 2 月 20 日
配布・回収の方法	<p>① 調査方法：電子メール及び国土技術研究センター（JICE）ホームページ上でアンケート回答用紙を配布、電子メール及び FAX により回収</p> <p>②配布対象：DPI（障害者インターナショナル）日本会議、日本身体障害者団体連合会、全国肢体障害者団体連絡協議会、日本福祉のまちづくり学会を通じて各加盟団体・関連団体等へ配布</p>	<p>①調査方法：日本オストミー協会の東京及び千葉県支部の会員に対し、アンケート回答用紙を郵送にて配布・回収</p> <p>②配布対象：日本オストミー東京支部の会員 150、千葉県支部の会員 150。</p>	<p>①配布・周知方法：NPO 法人せたがや子育てネットの松田代表理事より紹介の子育てひろば 5 箇所へ郵送、国土交通省本省・地方局へメール、日本福祉のまちづくり学会等のメーリングリストの活用等により、広く関係方面へアンケートの協力の要請をはかった。</p> <p>②回答の回収方法：紙媒体（PDF ファイルで国土技術研究センター（JICE）のホームページよりダウンロード可能）のアンケート用紙については、郵送または FAX による回収を行うとともに、データ媒体（エクセル形式ファイルを国土技術研究センター（JICE）のホームページよりダウンロード可能）についてはメールでの回答を受け付けるものとし、未就学児の親であれば、誰もが回答可能とした。</p>
回答件数	105 件	243 件（回収率 81.0%）	640 件

2. アンケート調査結果の比較（以降：再掲）

（1）トイレの所要時間

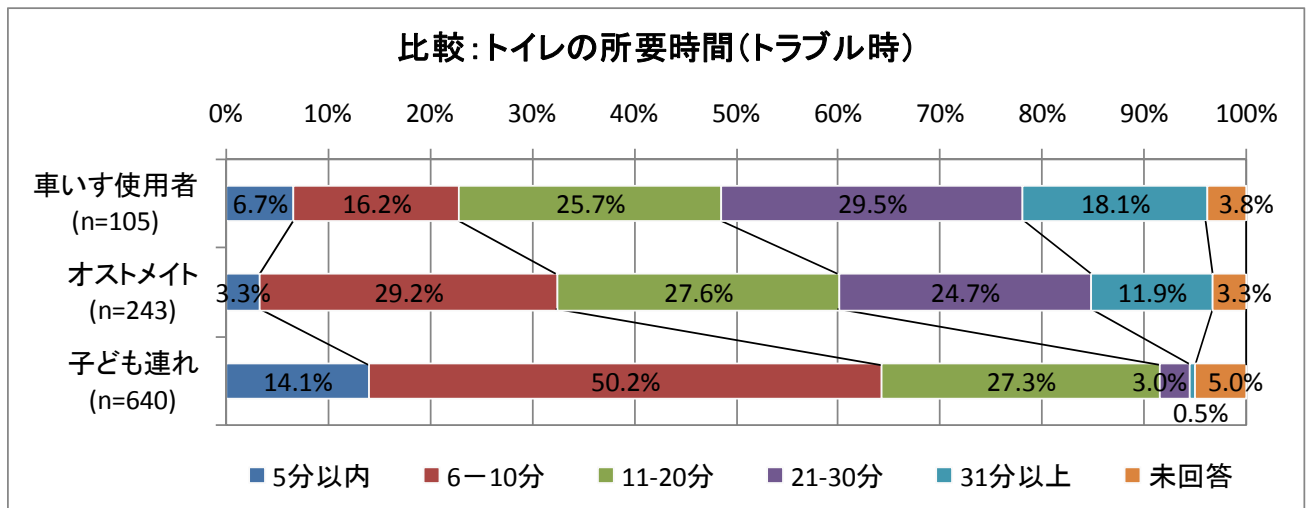
1-1 トイレの所要時間（通常時）

- ・ 「子ども連れ」が最もトイレの所要時間は短い。
- ・ 最も所要時間が長いのは「車いす使用者」である。



1-2：トイレの所要時間（トラブル時）

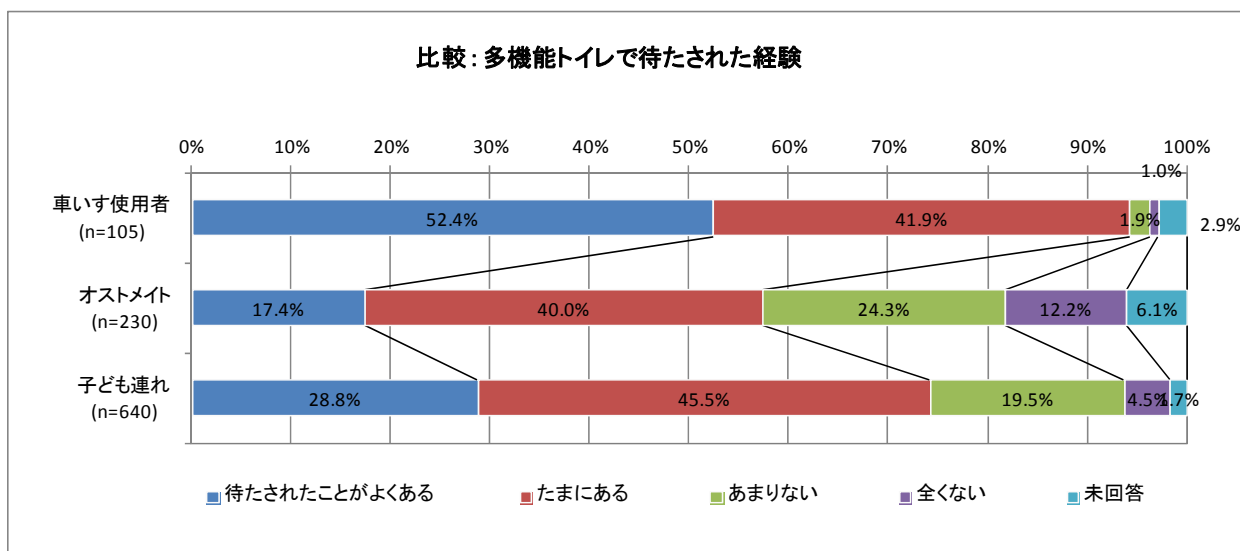
- ・ トラブル時でも、「子ども連れ」が最もトイレの所要時間は短い。
- ・ もっとも所要時間が長いのは「車いす使用者」である。



(2) 多機能トイレで待たされた経験等

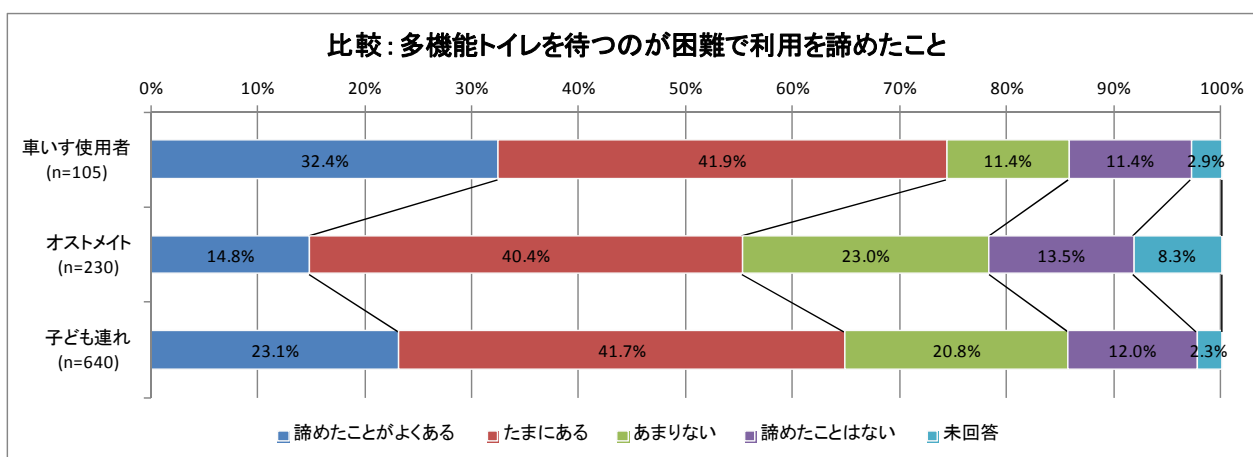
2-1：多機能トイレで待たされた経験

- 多機能トイレで待たされた経験で多いのは、車いす使用者の「待たされたことがよくある」52.4%である。「たまにある」まで含めた多機能トイレで待たされた経験を持つのは、車いす使用者が94.3%、オストメイトが57.4%、子ども連れが74.3%である。



2-2：多機能トイレを待つのが困難で利用を諦めたこと

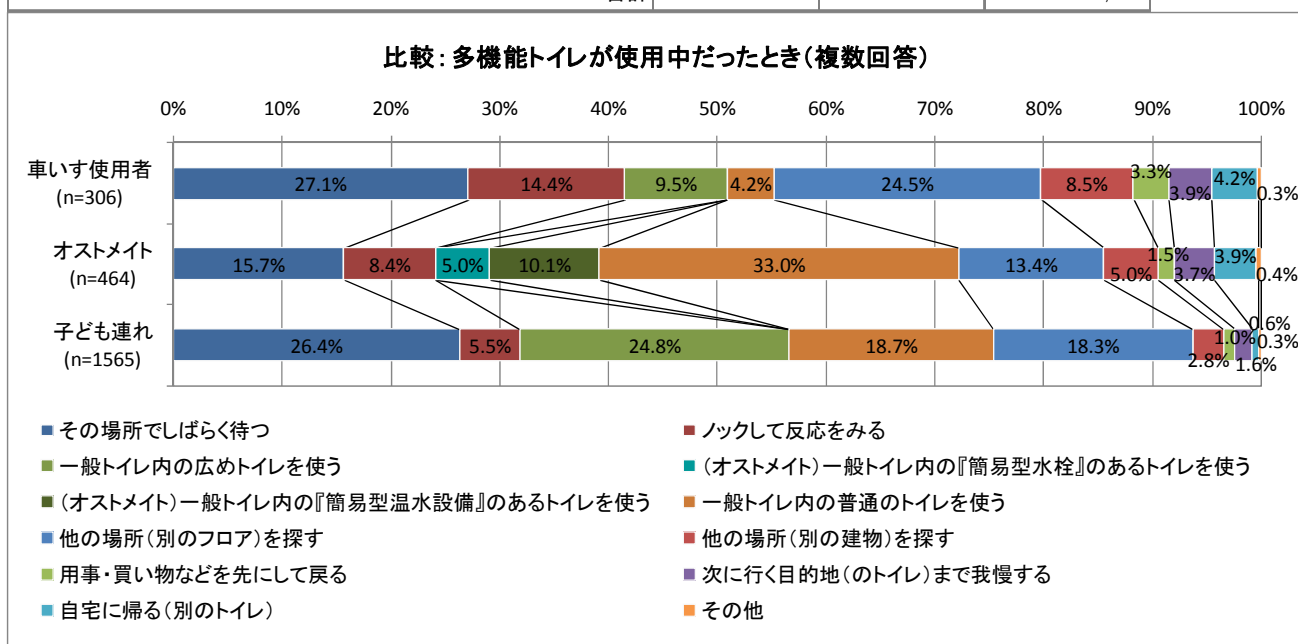
- 多機能トイレで待つのが困難で利用を「諦めたことがよくある」のは、車いす使用者32.4%である。「たまにある」まで含めた多機能トイレで待つことが困難で諦めた経験を持つのは、車いす使用者が74.3%、オストメイトが55.2%、子ども連れが64.8%である。



2-3：多機能トイレが使用中だったときはどうするか

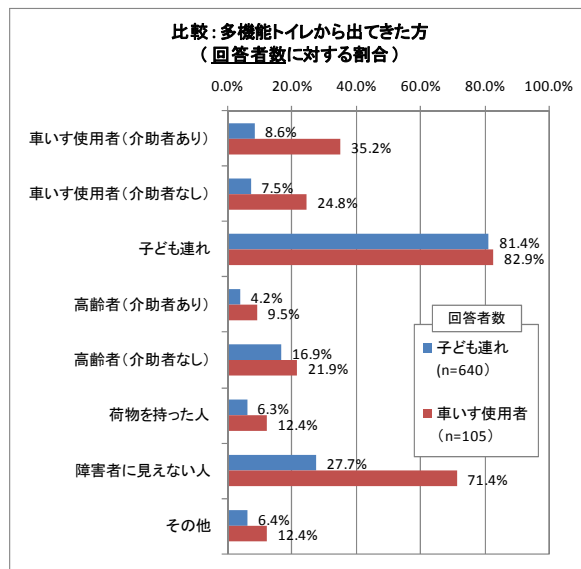
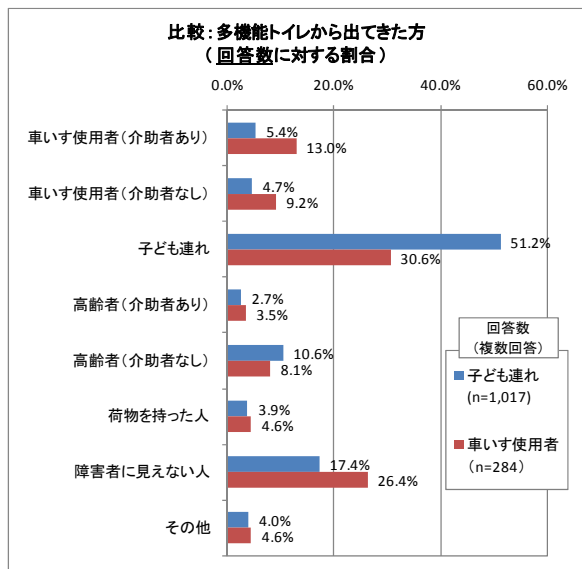
- ・ 多機能トイレが使用中の場合、「その場所でしばらく待つ」のは、車いす使用者 27.1%、子ども連れ 26.4%とほぼ同じ割合である。「ノックして反応」をみて多機能トイレの状況を把握し、そこにある多機能トイレを使いたいと感じているのは、「その場所でしばらく待つ」と合わせると、車いす使用者 41.5%が最も多く、子ども連れ 31.9%、オストメイト 24.1%である。
- ・ 一方、オストメイトは「一般トイレ内の普通のトイレを使う」33.0%の割合が高い。
- ・ 「一般トイレ内の広めトイレを使う」については、子ども連れ 24.8%の割合が高い。オストメイトでは「広めトイレ」の選択肢は設けていないが、「一般トイレ内の簡易型水栓」5.0%、「一般トイレ内の簡易型温水設備」10.1%を合計すると 15.1%となる。
- ・ 「他の場所（別のフロア）を探す」は、車いす使用者 24.5%が最も多く、次いで子ども連れ 18.3%である。

	車いす使用者 (n=306)	オストメイト (n=464)	子ども連れ (n=1565)
その場所でしばらく待つ	83	73	413
ノックして反応をみる	44	39	86
一般トイレ内の広めトイレを使う	29	—	388
(オストメイト)一般トイレ内の『簡易型水栓』のあるトイレを使う	—	23	—
(オストメイト)一般トイレ内の『簡易型温水設備』のあるトイレを使う	—	47	—
一般トイレ内の普通のトイレを使う	13	153	293
他の場所(別のフロア)を探す	75	62	287
他の場所(別の建物)を探す	26	23	44
用事・買い物などを先にして戻る	10	7	16
次に行く目的地(のトイレ)まで我慢する	12	17	25
自宅に帰る(別のトイレ)	13	18	9
その他	1	2	4
合計	306	464	1,565



2-4：使用中の多機能トイレから出てきた方（オストメイトは調査対象項目外）

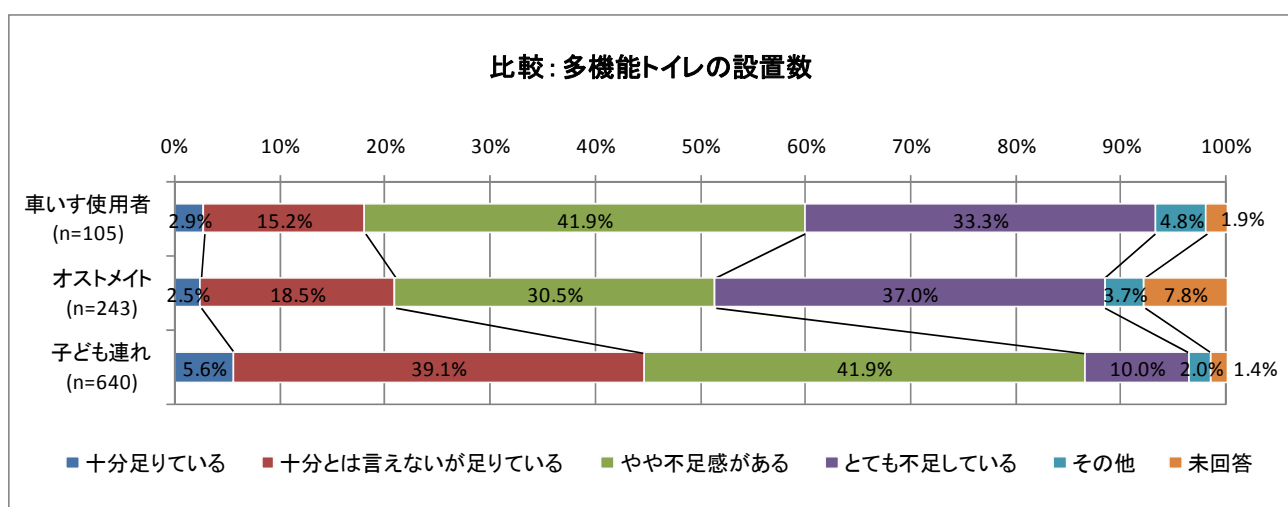
- ・ 待っていた方が「車いす使用者」と「子ども連れ」の場合に、多機能トイレから出てきた人の回答について比較した。（複数回答であるため、「回答数」「回答者数」に対する割合をそれぞれ以下のグラフにしている。）
- ・ 多機能トイレから出てきた方で最も多いのは、「子ども連れ」であり、車いす使用者、子ども連れともに回答者の8割が選択している
- ・ 「障害者に見えない人」の割合は車いす使用者が多く、回答者数の71.4%が選択している。
- ・ 「車いす使用者」を選択しているのは車いす使用者の方が多い。



(3) 多機能トイレに関する課題

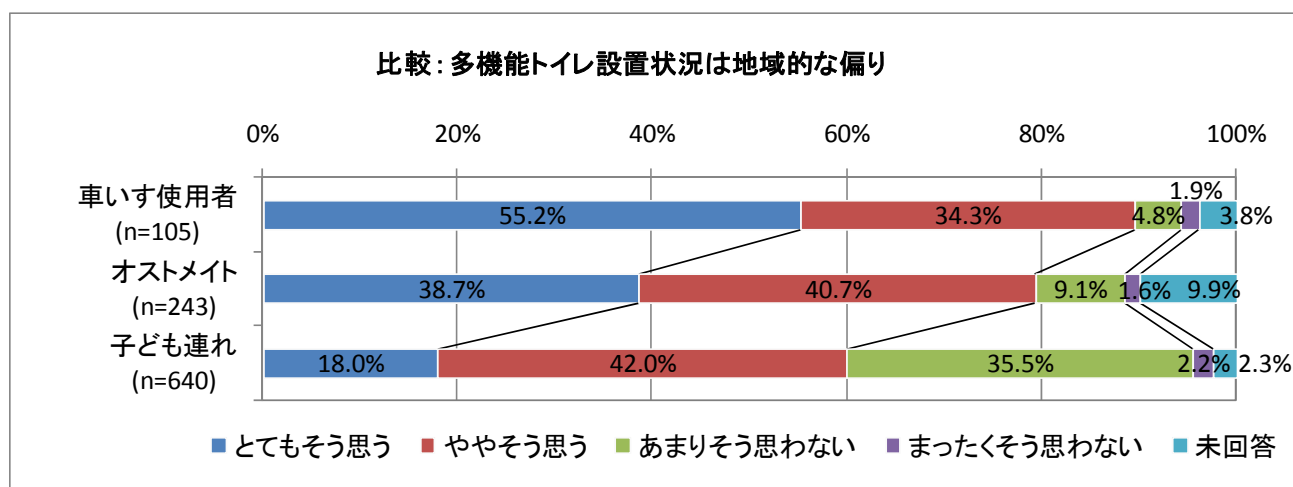
3-1 : 多機能トイレの設置数

- ・ 車いす使用者、オストメイトとも 20%程度の方が多機能トイレが「十分とは言えないが足りている」と回答している。子ども連れはその割合が 44.6%である。
- ・ 不足感が最も強いのは、オストメイトの「とても不足している」37.0%であり、車いす使用者も 33.3%である。
- ・ 「やや不足感がある」「とても不足している」を合わせた多機能トイレが不足していると感じている割合は、車いす使用者が 75.2%、オストメイトが 67.5%、子ども連れが 51.9%である。



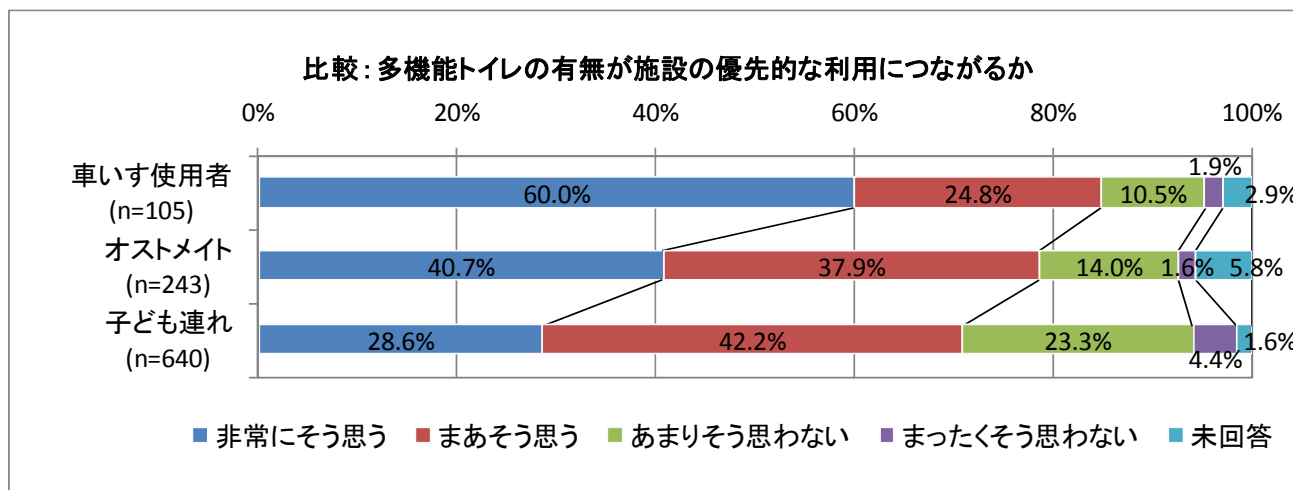
3-2 : 多機能トイレ設置の地域的な偏り

- ・ 多機能トイレの地域的な偏りを最も強く感じているのは、車いす使用者の方が「とてもそう思う」55.2%である。
- ・ 「とてもそう思う」「ややそう思う」の地域的な偏りがあると感じているのは、車いす使用者が 89.5%と最も多く、オストメイトが 79.4%、子ども連れが 60.0%である。



3-3：多機能トイレの設置が施設の優先的利用につながるか

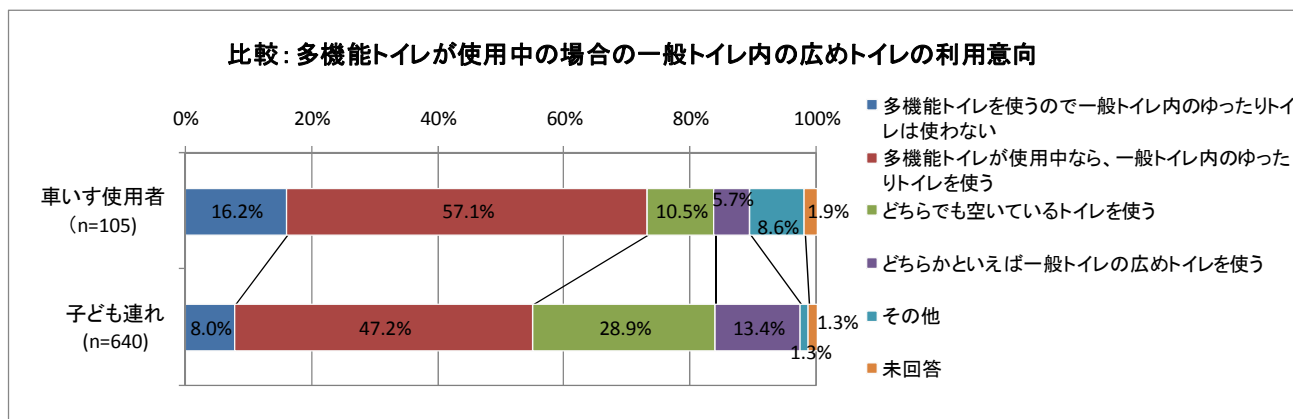
- ・ 多機能トイレの設置が施設の優先的利用につながるかについては、車いす使用者の方が「非常にそう思う」割合が60.0%と高い。
- ・ 「非常にそう思う」「まあそう思う」の多機能トイレの設置の有無が施設の優先的利用につながると感じているのは、車いす使用者が84.8%と最も多く、オストメイトが78.6%、子ども連れが70.8%である。



(4) 一般トイレ内の広めトイレの使用

4-1：多機能トイレが使用中の場合の一般トイレ内の広めトイレの利用意向

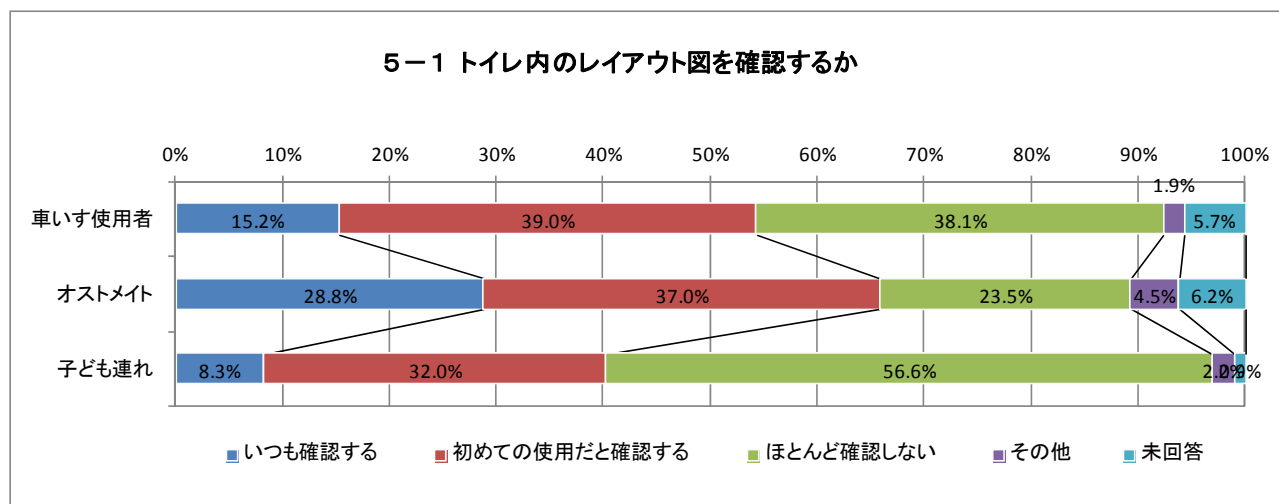
- ・ 「多機能トイレを使うので一般トイレ内の広めトイレは使用しない」については、車いす使用者16.2%が子ども連れ8.0%より割合が多い。
- ・ 「多機能トイレが使用中なら、一般トイレ内の広めトイレを使う」については、車いす使用者57.1%、子ども連れ47.2%でどちらも多い。
- ・ 「どちらでも空いているトイレを使う」「どちらかといえば一般トイレの広めトイレを使う」は、子ども連れの方が割合が高い。



(5) 表示・情報提供

5-1：トイレ内のレイアウト図を確認するか

- ・ トイレ内のレイアウト図を確認するかについては、オストメイトの方が「いつも確認する」の割合が高い。
- ・ 「ほとんど確認しない」の割合は、子ども連れが最も多く、56.6%である。



5-2：表示に期待すること（子ども連れは選択肢が異なるため比較しない）

- ・ 選択肢を一部変えている（『簡易型水栓』、『車いす使用者の優先利用』）ので、一概に比較が難しいが、「他フロアや近隣にある多機能トイレに関する情報提供をしてほしい」とのニーズが車いす使用者、オストメイトとも高い。
- ・ 「多機能トイレ内の設備に関する情報提供」はオストメイトの方がニーズが高い。
- ・ 車いす使用者の場合は「車いす使用者の優先利用」について明記してほしいとのニーズが高い。

